

(様式2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25 年 10 月 9 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471504179		
法人名	有限会社 シンライフ		
事業所名	グループホームスマイル		
所在地	広島県福山市千田町二丁目33番23号 (電話) 084-961-0206		
自己評価作成日	平成25年7月16日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	(社福) 広島県社会福祉協議会
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2
訪問調査日	平成25年8月8日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>介護事業所でできる範囲内で身体ケアを充実できるようにしている。 提携医師との連携を濃密にし、終末期が来てもスマイルで過ごしていただけるように支援している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>グループホームスマイル（以下、ホーム）は、福山市の山陽道福山東IC近くの閑静な住宅街の一角にあります。開設から9年が経過し、介護職員もホームの理念である「敬意」と「尊敬」を持った、思いやりのある介護に取り組まれています。 また、終末期ケアについては、家族の意向のもとに、医師と協議を行いながら看取りケアにも取り組まれています。緊急時の場合に役立つカードを入居者の居室入口に掛け、本人の緊急連絡先や既往歴、服用中の薬などが判るようになっており、緊急時にも適確な対応が取れるよう工夫されています。 さらに、近くの中学校の職場体験の生徒の受け入れを積極的に行い、生徒と入居者の交流にも取り組まれています。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営(1ユニット)					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎朝朝礼で理念を唱和し、ただ唱えるだけではなく意味を深く理解し自然と日々のケアに生かせるようにミーティングの場でも話し合っている	理念は、「報恩」「環境整備」「礼儀」を基本に定められています。これらの方針を基に、設立時にユニットことで、職員全員が検討した理念が作成されています。朝礼で理念を確認し合い、迷った時には理念に立ち返り確認するよう指導されています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	年2回の溝掃除、公園掃除、資源ゴミ回収に参加し事業所を知っていただけるように積極的に挨拶や会話をするようにしている	自治会に加入し、清掃活動などに参加されています。また、今年から地元千田地区の夏祭りに参加されています。さらに、地域住民を招待し秋祭りを開催される予定です。祭りでは、法人の事業所と協同で、コンサートや踊り、模擬店など、入居者と住民が交流を図れるよう企画されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の老人会に声をかけて舞踊や音楽フラダンス等に来ていただき入居者の方たちとふれ合いの機会を作ったり、職員は近隣の人たちに積極的に挨拶するようにグループホームを理解していただけるように努めている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し民生委員・市職員・地域包括支援センター・家族・利用者の参加がありスマイルの現状を知っていただき意見交換や貴重な意見をいただきそれを全職員に知らせサービス向上につながるようにしている	会議は、概ね2か月に1回開催されています。会議には、市役所から2人、地域包括支援センター、民生委員、入居者、家族の出席があります。ホームの運営状況や地域の高齢者問題について意見交換が行われています。議事録を作成し、職員全体にも情報共有されています。	
		○市町との連携		運営推進会議には、市職員の出席が主	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市や包括支援センターの主催研修に参加したり市の担当者が事業所に来てくださったりして協力していただいている	運営推進会議には、市職員の出席があります。困難事例など、市職員とは随時連絡を取り合われています。また、地域包括支援センター主催の研修会へ参加されています。	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	身体拘束はマイナスを及ぼす事を年に1回の研修に参加し職員の勉強会にて周知徹底し意識確認しているが離苑の可能性の高い利用者が不穏な場合、仕方なく玄関に施錠している	身体拘束をしないケアについて、宣言文を玄関に掲示されています。年1回、身体拘束をしないケアについての職員研修会を実施されています。玄関の施錠はされていません。外出傾向の強い入居者には、職員が付き添い散歩に出かけるなど気分転換を図っておられます。	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	フロアーにカメラを設置し24時間事故防止に注意を払っている。年に1回職員の勉強会にて周知徹底し意識の確認をしている		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	外部研修や職員情報収集で得た知識をミーティングのときに発表し意見を交換している		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	利用者本人は殆ど理解できない状態にあるためキーパーソン、家族に重要事項を説明し疑問や不安に対して十分説明し理解と納得を得るように努めている		
		○運営に関する利用者、家族等意見の反映		入居者の生活状況を2か月ごとに文書で	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見や要望は日頃より伺うようにしている。話しやすい雰囲気づくりに努めており、雑談の中の要望らしき言葉もしっかりと受け止めケアに生かすよう努めている	報告し、家族から好評を得ています。面会時には、家族の意見を聞くように努められています。家族からは、足の機能低下予防のための運動についてなどの要望が出されています。出された意見や要望は、ケアに活かすよう取り組まれています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的に個別面談を行い意見交換し又、必要に応じて面談し働きやすい職場づくりに努めている	代表者が定期的に職員と個別面談を実施し、働きやすい職場づくりに努められています。職員からの意見は、速やかに対応されています。朝の引き継ぎ時間の確保や勤務時間の変更、車椅子用の体重計購入など、職員から出された提案や意見が運営に反映されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	社長面談を行い職員一人一人のモチベーションの再確認や個人目標達成等の話し合いの場をつくっている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	月に一回以上の勉強会と順次の外部研修により個々のスキルアップにつなげている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域包括等の活動に積極的に参加し意見公開等をしてサービス向上に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前面談で本人・家族の要望をしっかりと傾聴しこちらからも少しずつ質問しながら信頼関係が築けるように努め又、一度できた信頼関係を壊さないように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	面談時から不安なこと・要望等を言っていたるように雰囲気づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	必要サービス度の高い順でプランに組み入れるようにしている。グループホームなので他のサービスの利用はボランティアさんの力を借りて支援している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	個別対応時の声かけや共同生活の中で共感できるようなレクリエーション・外出支援をしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	半年に1回、定期ご利用状況報告書を送付し現状の理解を共有していただけるよう支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者や家族から馴染みの人・場所を伺っているがなかなか個別支援に繋がっていない	馴染みの人や場所とのつながりが継続できるよう、家族の協力を得て支援されています。入居者がかつて世話をされていた人の訪問があるなど、懐かしい再会に喜ばれた事例があります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気の合う利用者同士を近くの席に座ってもらい会話をする場を作りお互いのコミュニケーション能力が向上するように支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了しても次の施設に面会に行き関係を大切にしている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の目や表情をみて話しをし傾聴することで希望や意向の把握に努めている	家族やケアマネジャーからの情報に加えて、日々の生活の中で入居者の思いや意向の把握に努められています。編み物が得意な人や習字、ハーモニカ演奏など、入居者ができることを検討しながら支援できるよう努力されています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	その人の生活歴を大切にし家族の情報を基にその方に何が出来るか話し合い支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人一人が毎日の生活の様子を詳細にして記録しスタッフが情報を共有し統一した支援を行っている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	グループホームはどのように生活していきたいか、本人や家族の希望を聞きそれを実現するためにはどのようにしたらいいかを話し合い介護計画を作成している。	担当職員を決め、毎月のモニタリングに基づいてカンファレンスを実施されています。カンファレンスでは、ユニットごとの職員が全員出席し、課題分析が行われています。家族との関係が途切れない支援のための計画作成にも取り組まれています。また、プラン変更となった箇所などを朱書きにして工夫もされています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に残し各担当職員が介護経過・評価記録にまとめているのを見てケアプラン見直しに生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	グループホームでできることはしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	民生委員・ボランティア・地域の学校の行事等関わって生活している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>2週間毎にかかりつけ医の往診があり緊急時にも24時間対応していただいている。又、他病院への紹介や予約もいただいている</p>	<p>入居時に、ホームの協力医療機関をかかりつけ医に変更される入居者がほとんどです。2週間に1回、協力医療機関の医師の往診があります。また、専門診療科への受診は、職員が付き添われています。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>日々のケアの中で気付いた事や情報は介護記録、連絡帳で全職員が共有し看護師連絡帳へも記入。また、口頭で伝え必要に応じて医師の師指示を受け適切な支援が行われるようにしている</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>主にホーム長・看護師・ケアマネージャーが情報交換している</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>本人の意思確認はできないことが多いが家族・主治医・職員が十分に話し合い方針を決めてそれに沿ったケアを行っている。また、入居前に終末期のあり方について主治医・家族とともに話し合いを行っている</p>	<p>入居時に、終末期のあり方について医師と家族とで話し合いを行われています。兆候が見られた場合に、医師から病状説明をもらい、その後の対応方針を家族に確認されています。また、最期を迎える場所について、家族の意向を確認し、ホームでもスタッフ全員で支援できるよう体制を整えておられます。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>事故発生時や急変時の初期対応のマニュアルを作成しており全職員が把握し実践力を身につけるようにしている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震，水害等の災害時に，昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに，地域との協力体制を築いている。</p>	<p>福山東警察・民生委員・組長さん等にスマイルの入居状況を伝えており、災害時の協力をお願いしている。また、スマイルでできることは利用していただきたいことも伝えている</p>	<p>想定される災害は，火災，地震です。建物は，スプリンクラーが完備されています。日頃から，警察署や民生委員，自治会に入居者の人数や身体状況等の情報提供を行われています。年2回，避難訓練を実施されています。近隣住民には，避難者の見守りなどの協力をお願いされています。</p>	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し，誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。</p>	<p>常に利用者一人一人の人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけをしている</p>	<p>入居者の人格を尊重し，誇りやプライバシーを損ねない対応に配慮されています。トイレや風呂など，入居者の気持ちになって対応するよう職員へ指導されています。また，認知症高齢者とのコミュニケーションの取り方や声かけマニュアルを事務所に掲示し，注意を喚起されています。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり，自己決定できるように働きかけている。</p>	<p>入浴・排せつ時は声かけにて意思確認を行っている。おやつ時などでも飲み物表で提示し好きなものを決めていただいている</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく，一人ひとりのペースを大切にし，その日をどのように過ごしたいか，希望にそって支援している。</p>	<p>一人一人のペースに合わせて起床・食事・入浴の介助を行っている。</p>		
		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自分で分かる方は洋服などは好きなものを選んでいただいたり季節に合った服装で快適に過ごしていただけるよう支援している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者様のお好きなメニューを聞いたり食材の下ごしらえを手伝っていただいたり一人一人の力に応じて支援している	職員の手作りによる温かい食事を提供されています。入居者は、下ごしらえなどできることを手伝っておられます。また、おやつ作りは、入居者と職員と一緒に作るようにされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	利用者各自の食事料を把握し厳守の上提供している。水分は1日1200以上を目安に確保できている。副食は減塩を実施している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後必ず口腔ケアを行い口腔内の清潔保持を実施。義歯の方は夜間は洗浄剤にて汚れ等を除去している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	トイレ内で排せつができるように定期的に声かけ誘導を行っている。不快感をなくすように努めている	トイレに腰かける際に座位の確保が難しい入居者は、オムツを使用する人もいます。それ以外の入居者については、トイレ誘導を行い、自立に向けて支援されています。	
		○便秘の予防と対応			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	利用者各自の状態を把握し対応している。個々においては乳製品や食物の工夫にて対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	少なくとも週に2回以上入浴するように声かけを行っている。拒否時はタイミングを計ったり日を変えて入浴していただけるように支援している	入浴は、最低でも週2回以上入浴するよう支援されています。個室で、家庭風呂と同じ造りになっており、1つのユニットには機械浴が設置されており、重度化した場合でも安心して入浴できるよう完備されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	昼食後は2時間程度休んでいただき疲労を取るようになっている。夜、安眠できるように日中は体操やレクリエーションをし適度に身体を動かすようになっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の効能・効果・注意事項は理解するように努めている。服薬時は声かけ・見守りをし確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	洗濯物をたたんだりお盆をふいたりして仕事を思っ楽しんでしておられる方がいる。お人形のお世話をしておられる方がいる。楽しみごとが見つからない方の支援をしていきたい		
		○日常的な外出支援			入居者の重度化に伴い、歩行が難しく

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	雛人形見学・バラ公園でバラの見学。その他ドライブや歌・踊りを見に町内の施設に行ったり外出している	季節ごとの催しや行事で外出を楽しまれています。日常的な散歩や買い物などの機械は少ないです。	なっている現状はありますが、入居者の気分転換や五感刺激が得られるような機会を設けることは必要と思われます。今後は、ホームの達成目標にもあげているように、外食や買い物、散歩、ドライブ等の外出の実践に向けて、家族や地域のボランティアにも協力を得ながら実施できるよう期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	なかなか買い物等に行く機会が作れていない。ただ週に1回移動パン屋さんが来る日に順番でパンを買いにいっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の希望があれば電話したり電話がかかれば取り次いで楽しく話ができるように支援している。手紙のやり取りをする支援も行っている		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	環境整備により清潔な空間を提供できるように掃除・片付けを行う。飾り付けや花などで季節感を感じていただいている	平屋建てのホームは、閑静な住宅街の一角にあります。ダイニングの天井は高く天窓があり、明るく開放感があります。ダイニングや廊下の壁には、貼り絵など入居者の作品が掲示されています。入居者は、ダイニングの椅子やソファで思い思いに寛がれています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	各自席の場所は一応決めているが自由に移動し過ごせるような空間づくりを実施している。共有のソファや座敷を提供している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居前に家族に本人が使い慣れたものを持ってきていただくように話、写真やタンス等できるだけ自宅で過ごされていたときと同じ様な居室づくりに努めている</p>	<p>居室には、整理タンスの他に入居者は使い慣れた日用品や家族の写真を持ち込まれています。ベッドを設置した洋室ですが、畳を持ち込み、和室風にする入居者もおられました。介助のため毎日来所する家族に、休憩用のベッドを配置するなどの配慮をされています。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>各自個人の居室にてプライベートを確保し自立した生活ができるように工夫している。</p>		

V アウトカム項目(1ユニット)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営(2ユニット)					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎朝朝礼で理念を唱和し、ただ唱えるだけではなく意味を深く理解し自然と日々のケアに生かせるようにミーティングの場でも話し合っている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	年2回の溝掃除、公園掃除、資源ゴミ回収に参加し事業所を知っていただけるように積極的に挨拶や会話をするようにしている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の老人会に声をかけて舞踊や音楽フラダンス等に来ていただき入居者の方たちとふれ合いの機会を作ったり、職員は近隣の人たちに積極的に挨拶するようにシグループホームを理解していただけるように努めている		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し民生委員・市職員・地域包括支援センター・家族・利用者の参加がありスマイルの現状を知っていただき意見交換や貴重な意見をいただきそれを全職員に知らせサービス向上につながるようにしている		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	市や包括支援センターの主催研修に参加したり市の担当者が事業所に来てくださったりして協力していただいている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束はマイナスを及ぼす事を年に1回の研修に参加し職員の勉強会にて周知徹底し意識確認しているが離苑の可能性の高い利用者が不穏な場合、仕方なく玄関に施錠している</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>フロアーにカメラを設置し24時間事故防止に注意を払っている。年に1回職員の勉強会にて周知徹底し意識の確認をしている</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>外部研修や職員情報収集で得た知識をミーティングのときに発表し意見を交換している</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>利用者本人は殆ど理解できない状態にあるためキーパーソン、家族に重要事項を説明し疑問や不安に対して十分説明し理解と納得を得るように努めている</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>意見や要望は日頃より伺うようにしている。話しやすい雰囲気づくりに努めており、雑談の中の要望らしき言葉もしっかりと受け止めケアに生かすよう努めている</p>		
		○運営に関する職員意見の反映			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的に個別面談を行い意見交換し又、必要に応じて面談し働きやすい職場づくりに努めている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	社長面談を行い職員一人一人のモチベーションの再確認や個人目標達成等の話し合いの場をつくっている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	月に一回以上の勉強会と順次の外部研修により個々のスキルアップにつなげている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域包括等の活動に積極的に参加し意見公開等をしてサービス向上に努めている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前面談で本人・家族の要望をしっかりと傾聴しこちらからも少しずつ質問しながら信頼関係が築けるように努め又、一度できた信頼関係を壊さないように努めている		
		○初期に築く家族等との信頼関係			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	面談時から不安なこと・要望等を言っていたるように雰囲気づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	必要サービス度の高い順でプランに組み入れるようにしている。グループホームなので他のサービスの利用はボランティアさんの力を借りて支援している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	個別対応時の声かけや共同生活の中で共感できるようなレクリエーション・外出支援をしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	半年に1回、定期ご利用状況報告書を送付し現状の理解を共有していただけるよう支援している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	利用者や家族から馴染みの人・場所を伺っているがなかなか個別支援に繋がっていない		
		○利用者同士の関係の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気の合う利用者同士を近くの席に座ってもらい会話をする場を作りお互いのコミュニケーション能力が向上するように支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス終了しても次の施設に面会に行き関係を大切にしている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の目や表情をみて話しをし傾聴することで希望や意向の把握に努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	その人の生活歴を大切にし家族の情報を基にその方に何が出来るか話し合い支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一人一人が毎日の生活の様子を詳細にして記録しスタッフ全体が情報を共有し統一した支援を行っている		
		○チームでつくる介護計画とモニタリング			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	グループホームはどのように生活していきたいか、本人や家族の希望を聞きそれを実現するためにはどのようにしたらいいかを話し合い介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に残し各担当職員が介護経過・評価記録にまとめているのを見てケアプラン見直しに生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	グループホームでできることはしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	民生委員・ボランティア・地域の学校の行事等関わって生活している		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	2週間毎にかかりつけ医の往診があり緊急時にも24時間対応していただいている。又、他病院への紹介や予約もいただいている		
		○看護職員との協働			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々のケアの中で気付いた事や情報は介護記録、連絡帳で全職員が共有し看護師連絡帳へも記入。また、口頭で伝え必要に応じて医師の師指示を受け適切な支援が行われるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主にホーム長・看護師・ケアマネージャーが情報交換している		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	本人の意思確認はできないことが多いが家族・主治医・職員が十分に話し合い方針を決めてそれに沿ったケアを行っている。また、入居前に終末期のあり方について主治医・家族とともに話し合いを行っている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事故発生時や急変時の初期対応のマニュアルを作成しており全職員が把握し実践力を身につけるようにしている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	福山東警察・民生委員・組長さん等にスマイルの入居状況を伝えており、災害時の協力をお願いしている。また、スマイルでできることは利用していただきたいことも伝えている		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常に利用者一人一人の人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねないような言葉かけをしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入浴・排せつ時は声かけにて意思確認を行っている。おやつ時などでも飲み物表で提示し好きなものを決めていただいている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人一人のペースに合わせて起床・食事・入浴の介助を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自分で分かる方は洋服などはお好きなものを選んでいただいたり季節に合った服装で快適に過ごしていただけるよう支援している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者様のお好きなメニューを聞いたり食材の下ごしらえを手伝っていただいたり一人一人の力に応じて支援している		
		○栄養摂取や水分確保の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	利用者各自の食事料を把握し厳守の上提供している。水分は1日1200以上を目安に確保できている。副食は減塩を実施している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後必ず口腔ケアを行い口腔内の清潔保持を実施。義歯の方は夜間は洗浄剤にて汚れ等を除去している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	トイレ内で排せつができるように定期的に声かけ誘導を行っている。不快感をなくすように努めている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	利用者各自の状態を把握し対応している。個々においては乳製品や食物の工夫にて対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	少なくとも週に2回以上入浴するように声かけを行っている。拒否時はタイミングを計ったり日を変えて入浴していただけるように支援している		
		○安眠や休息の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	昼食後は2時間程度休んでいただき疲労を取るようしている。夜、安眠できるように日中は体操やレクリエーションをし適度に身体を動かすようしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の効能・効果・注意事項は理解するように努めている。服薬時は声かけ・見守りをして確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	洗濯物をたたんだりお盆をふいたりして仕事を思っ楽しんでしておられる方がいる。お人形のお世話をしておられる方がいる。楽しみごとが見つからない方の支援をしていきたい		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	雛人形見学・バラ公園でバラの見学。その他ドライブや歌・踊りを見に町内の施設に行ったり外出している		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	なかなか買い物等に行く機会が作れていない。ただ週に1回移動パン屋さんが来る日に順番でパンを買いにいっている		
		○電話や手紙の支援			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の希望があれば電話したり電話がかかれば取り次いで楽しく話ができるように支援している。手紙のやり取りをする支援もやっている		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	環境整備により清潔な空間を提供できるように掃除・片付けを行う。飾り付けや花などで季節感を感じていただいている		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	各自席の場所は一応決めているが自由に移動し過ごせるような空間づくりを実施している。共有のソファや座敷を提供している		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	入居前に家族に本人が使い慣れたものを持ってきていただくように話、写真やタンス等できるだけ自宅で過ごされていたときと同じ様な居室づくりに努めている		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	各自個人の居室にてプライベートを確保し自立した生活ができるように工夫している。		

V アウトカム項目(2ユニット)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式3)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームスマイル

作成日 平成 25 年 11 月 5 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	18	外出の機会を増やす。	個別（本人の希望）の外出を増やす。	催物等で、グループでの外出以外に個人対職員での外出を増やしていく。	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。